

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170200760		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホーム すぎの子の家		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目10-2		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。  
<http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170200760&SCD=320>

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さまの高齢化が進むなか、起床/就寝時間、日中の休憩(臥床)時間、あるいは食事形態など、できるだけ一人ひとりの希望や個性を大切にしながら対応するようにしている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年3月26日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は、信頼関係と馴染みの関係の中で、事業所理念『ゆっくり一緒に楽しく豊かに』を基本とし、自分だったらどうかと置き換えたケアの実践や、利用者と共に過ごす日々を大切にしている。季節を感じる事ができる外出行事や、毎日の散歩や買い物は個々の希望にそって支援しており、家族の信頼も厚い。質の高いケアを提供するために、利用者一人ひとりを、多角的視点からアセスメントすることができ、目で見てわかりやすいオーストラリアで開発されたアセスメントツール、CPAT(CarePlanningAssessmentTool)を使用しており、グループホーム全国大会で発表している点は大変評価できる。さらに、そしゃくアセスメントシートを使い、嚥下状態に合わせた支援をしている。体操・かるた・風船バレー等のアクティビティを取り入れ、事務所内でも楽しく過ごせるよう工夫している。職員の定着率も高く、馴染みの関係が築かれており、地域密着型として利用者本位を実践している温かい事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念とし、良いケアを目指して日々取り組んでいる。(現在、すぎの子と共同で理念を作成中)	法人の運営理念と目標は玄関ホールに掲示し、事業所独自の理念はリビングや事務所に掲示している。理念は会議等で確認するとともに、全職員で共有しケアの実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や救急救命講習に参加している。また、町内の人たちに、すぎの子での火災訓練を見学/参加してもらっている。	運営母体医療法人主催の祭りや避難訓練には、地域住民が参加している。1階保育園前の掲示板で、介護や医療の情報を地域に発信している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医療・福祉に関して法人主催の健康教室等を開催し、好評を博している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2ヶ月に1度は運営推進会議を開き、グループホームでの入居者の生活、ホーム内で発生した事故の統計、認知症についての基礎知識等について報告している。	定期開催している運営推進会議では、地域住民や家族の出席が多く、行事予定と報告・防災計画・事故報告等が話し合わせ、さらに認知症や紙オムツ等の勉強会も行っている。	運営推進会議終了後は、参加者や利用者家族に議事録の送付を期待する。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事例発表の機会を利用しながら報告し、取り組んでいる。	グループホーム協議会・管理者連絡会議などに参加して情報を共有し、常に利用者本意のケアサービスに取り組んでいる。管理者は札幌市のコールセンターで認知症電話相談員をしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やカンファレンス等の機会を利用し、スタッフ間で話し合っている。夜間、気分の高揚が著しく、転倒のリスクが高い入居者さんについては、ご家族の理解と承諾を得た上で、ベッドからの転落を防止するために椅子を設置している。	グループホームは2・3階にあり、1階玄関は死角になっているため、玄関ドアは入館のみセキュリティチェックがあるが、屋外には自由に出ることが出来るので、常に見守り支援をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンス等の機会を利用し、スタッフ間で周知徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる入居者さんはいないが、研修会等があれば参加して理解を深めてゆきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず時間をとって説明し、理解していただくようにしている。また、契約はもちろん待機をかける際も、できるだけ1度見学してもらい、ホームの概要や費用等について説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議その他の機会において、意見や要望をいただき、都度検討するようにしている。	意見箱を設置している。家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞き、運営に反映するよう努力している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り等の機会を利用して行なっている。	管理者・全職員参加の全体会議が定期的に行われており、人事考課や職能評価でも、職員の意見等を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能評価し、努力や実績などを把握している。また、個々に目標を設定し、向上心を持って働くようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や勉強会には積極的に参加するよう呼びかけている。また、法人外の研修も、案内を掲示することで参加者を募り、積極的に参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、様々なテーマで合同研修会を開催し、他の事業所の職員との交流を図っている。管理者は、区の連絡協議会や管理者会議等に参加し、ネットワークづくりに励んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に向けて、了解を得た上で可能な限り多方面から情報収集を行ない、CPATを使ってアセスメントを行っている。本人や家族との面談も必ず設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談では、十分に時間をとって不安やニーズについて情報収集し、安心してご利用いただけるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CPATを使ったアセスメントによって、その方のニーズやケアの方向性をしっかり把握した上で初期プランを作成している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来そうなアクティビティや家事の手伝いなどしていただき、共に生活する雰囲気大切にしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時には必ず状況報告をしている。また、家族からの要望を聞くとともに支援の提案も行い、本人の生活をより良いものにするよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者に継続的に来訪をお願いするようにしている。また、元気な人には共に外出し、馴染みの場所にお連れするようお願いしている。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、家族と共にレストランでの食事や、墓参りに行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が複数で参加するアクティビティやレクレーションの場を設けることにより、入居者どうしの良い関係が継続してゆけるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じ相談にのるなどの支援に努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を聞き出し、その人らしい生活が送れるよう支援している。困難な場合は、家族と話し合い、本人にとってより良い暮らしとなるよう検討している。	日常の様子や会話・表情・行動等から個々の意向や希望の把握に努め、困難な場合は家族に相談し、本人本位の生活が出来るように支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時/入居後に、生活歴や馴染みの暮らし、趣味などについて情報を収集し、ケアに活かすようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時様子観察を行ない、申し送りやカンファレンス等で情報を共有するようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンス等で共有した情報をケア担当者が分析し、計画作成担当者と協力しながら常にケアプランをアップデートしている。	日頃の関わりの中から得た情報を基に、カンファレンスで協議を重ね、本人や家族の意見を反映させた介護計画を作成している。変化があった場合は、随時見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、温度板、健康管理ファイル等、洩れなく記入し、重要なことは連絡ノートで共有するなどして、ケアの見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の車を利用して外出したり、法人施設を利用してイベントを行ったりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などでの日々挨拶や、町内の方に協力していただき避難訓練を行なうなど取り組んでいる。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診察の際は、スタッフや看護師が必ず付き添い、日常の様子や特変を伝えている。医療機関受診は、家族やスタッフが付き添い、手紙や口頭で様子を伝えている。	協力病院医師による往診や、通院は随時行われている。また病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。事業所には看護師が勤務している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師に相談・報告しながら、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を用意し、入院中はスタッフが交代で様子を見に行くなど、状態の把握に努めている。また、退院前はカンファレンスを行ない、現状に合ったケアプランを作成して本人を迎える準備をする。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から医療職や家族を交えてムンテラを行ない、終末期に向けて家族と話し合いながら取り組んでいる。	本人・家族の意向・要望を基に協力医療機関と連携体制を組み、重度化や終末期への方向性や指針を文書で確認している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急やノロウィルス発生についての勉強会などを実施している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会を通して緊急時の救助の呼びかけを行ない、訓練に参加していただき、消防隊より指導を受け協力体制を築いている。	近隣住民参加で年2回避難訓練を実施している。火災通報装置やスプリンクラーが設置されており、緊急連絡網も整備されている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応の仕方には、本人の気持ちを配慮するよう努めている。	尊厳を大切に、プライドを傷つける事がないよう支援している。個人情報に関する書類は、事務室で適切に管理している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切にするために、常に意向を確認しつつ支援を行なうようにしている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入床時間、食事時間など、できるだけ一人ひとりのペースに合わせることで、その方の個性を尊重している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と協力して整容に対する支援を行っている。希望により、訪問美容を依頼している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮剥きやもやしのひげ取りなど簡単にできる作業を手伝っていただいている。また、食後の食器拭きなどもしていただいている。	利用者と共に、調理・配膳・後片付け等を行い、職員も同じ食卓に着き、会話を楽しみながらゆっくり食事が出来るように支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を心がけ、定期的に法人内の栄養士の評価を受けている。食が進まない方には、レトルトも含め、食形態にも配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に口腔ケアの声かけをし、歯磨きやうがいをしてもらっている。義歯の方は、夜間洗浄剤に浸けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取や食事の前後にトイレ誘導を行っているほか、本人が希望されたときは迅速に対応し、失禁を減らすよう努力している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導し排泄の自立支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含むものを提供したり、起床時に冷たい飲み物を勧めるなど工夫している。日中は軽い体操など、適度な運動も取り入れている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行ない、問題が無ければ入浴の声かけをしている。拒否のある場合は無理をせずに、日を改めて声かけするようにしている。	利用者の希望や体調に合わせて、いつでも入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者には、声かけやタイミングを工夫をしながら支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせており、朝、無理に起こしたりはしていない。日中も眠気が強いときは、臥床していただくなど配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は各自の健康管理ファイルに薬表が入っており、把握できるようになっている。薬の変更があった場合は、連絡ノートや申し送り情報で共有するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いやアクティビティ、季節の行事などで日々の生活に活力を持たせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は近隣への散歩を行なっている。その他にも、花見や動物園、喫茶店、外食など、スタッフや家族と外出する機会をできるだけ作るようにしている。	季節や天候によって、庭での外気浴・散歩・買い物等、希望に合わせて個別に対応している。また、さくらなどで焼き肉をする等、普段行けないところにも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者は金銭管理が困難であるが、可能な方は家族の協力の下で自己管理していただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときには、電話をかけたり電話を取り次いだりといった対応をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者とスタッフが共同で制作した貼り絵や塗り絵、食事メニュー表などを壁に貼るなどしているが、華美にならないように気をつけている。	リビングには利用者の作品や食事メニューが張られ、家庭的な空間となっている。光庭からはやわらかな自然光が射し込み、廊下も明るい。温度・湿度に気を配り、清潔で快適な居住空間を作っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間から少し離れたベランダ前に椅子を設置し、休憩できるように工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた馴染みの生活用品を置いてもらうなどして、なるべく自宅に近い雰囲気でも過ごしてもらうよう心がけている。	居室には自宅で使い慣れた私物や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、脱衣所等には手すりが設置されている。不十分なところはスタッフの介助で補っている。また、居室やトイレには表札を出し、場所が判るようにしている。		